

Smart and Human

摂南大学



令和5年(2023年)2月10日

枚方市高齢者居場所づくり事業インタビュー調査報告

# 「居場所からはじめる地域づくり」

摂南大学 学長付  
講師 上野山 裕士

# インタビュー調査のねらい

- 2021年11～12月に実施
- 新型コロナウイルス感染拡大による地域活動の停滞に対する危機感
- 「地域」を意識した居場所づくりに関する知見の獲得
- これからの地域のあり方を考える契機に

校区名	団体名(敬称略)
枚方第二	枚二みつば
香里	ほっとカフェ
明倫	チカラのみせ処 宮ノサポ
津田	ほっこりクラブ津田
川越	釈尊寺ふれあいの家、ふれあいのつどい処
菅原東	ぶらっとホーム
東香里	東香里元気づくり 地域づくりVタイム
西長尾	西長尾元気づくり 地域づくり

# 基本的な考え方の共有 「みんなの居場所を地域につくる」

## ➤ 世帯の複合問題

8050問題、ダブルケア、ヤングケアラー など

## ➤ 制度のはざま

制度の対象外・基準外、一時的なケース、  
ごみ屋敷、ひきこもり、ちょっとした困りごと など

## ➤ 社会的孤立

専門職を含めた相談相手の不在、居場所と役割  
→セルフネグレクトへ

## ➤ 地域の福祉力の脆弱化

つながりの希薄化、「コロナ」による地域活動の停滞

# 「地域生活課題」という概念

第四条 地域福祉の推進は、地域住民が相互に**人格と個性を尊重**し合いながら、**参加し、共生する地域社会**の実現を目指して行われなければならない。

2 地域住民、社会福祉を目的とする事業を営む者及び社会福祉に関する活動を行う者(以下「地域住民等」という。)は、相互に協力し、福祉サービスを必要とする地域住民が地域社会を構成する一員として日常生活を営み、社会、経済、文化その他あらゆる分野の活動に参加する機会が確保されるように、地域福祉の推進に努めなければならない。

3 **地域住民等は**、地域福祉の推進に当たっては、福祉サービスを必要とする**地域住民及びその世帯**が抱える**福祉、介護、介護予防**(要介護状態若しくは要支援状態となることの予防又は要介護状態若しくは要支援状態の軽減若しくは悪化の防止をいう。)、**保健医療、住まい、就労及び教育**に関する課題、福祉サービスを必要とする地域住民の**地域社会からの孤立その他の福祉サービスを必要とする地域住民が日常生活を営み、あらゆる分野の活動に参加する機会が確保**される上での各般の課題(以下「**地域生活課題**」という。)を把握し、地域生活課題の解決に資する支援を行う関係機関(以下「**支援関係機関**」という。)**との連携等**によりその解決を図るよう特に留意するものとする。

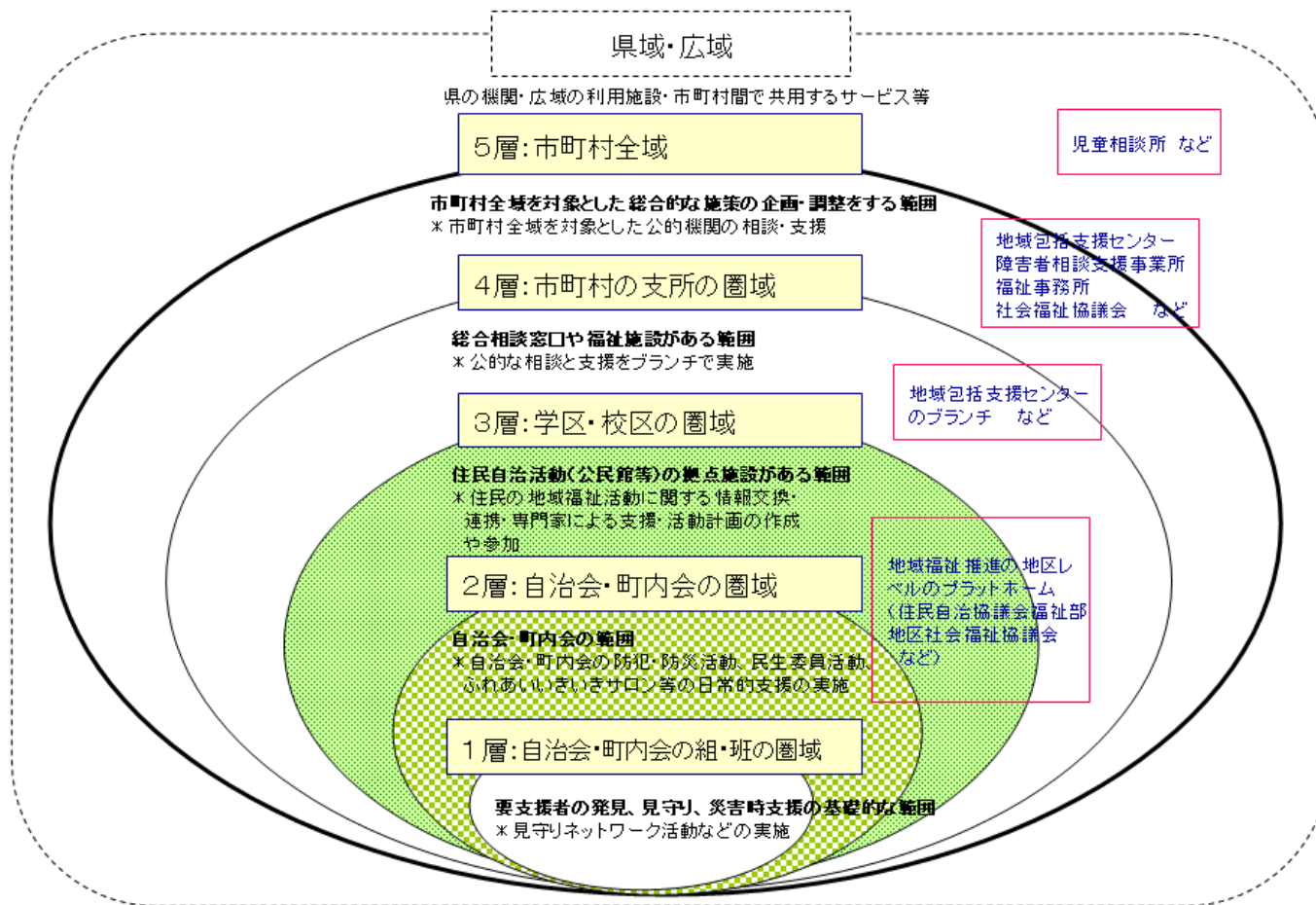
# 【参考】地域生活課題のアセスメント

- 視野を「暮らし」にまで広げる
  - 世帯へ、社会関係および社会資源への着目
- ICF(国際生活機能分類;どのような生活を送りたいか)の視点を活用した個人への寄り添い
- アウトリーチの重要性
  - 地域との日常的な関係づくり
- 地域における発見、予防の仕組みづくり
  - ≡非制度的な取り組み
  - 対話・交流・共有の場の可能性

# 【参考】「地域」の捉え方

## 重層的な圏域設定のイメージ

(ある自治体を参考に作成したものであり、地域により多様な設定がありうる)



とくに「非制度的な取り組み」の推進にあたっては、「圏域」にこだわりすぎない。地域住民、当事者が考える「地域」(生活圏域)の捉え方に寄り添う。場合によっては地域の垣根をこえる場面も多々ある。

(出典) 厚生労働省(2008)『「これからの地域福祉のあり方に関する研究会」報告書』

社会福祉＝幸せな社会をつくる取り組み

- ◆ **制度的**な取り組み(法律、サービスなど)と
  - ◆ **非制度的**な取り組み(支え合い、ボランティアなど)
- ⇒さまざまなアプローチの有機的な連携

私たちの社会と多様性

- 価値観(**生き方**)の多様性
  - 境遇(**生きづらさ**)の多様性
- ⇒一人ひとりの**想いや困りごと**に寄り添う取り組み



## ➤ ノーマライゼーション

だれもが「**ふつう(ありのまま)**」に生きることができる社会を目指す

## ➤ ソーシャル・インクルージョン

だれもが「**排除されない**」社会を目指す

## ➤ ソーシャル・ロール・バロリゼーション

だれもが「**価値ある役割**」を担う社会を目指す

「**支え手**」と「**受け手**」に分かれるのではなく、地域の**あらゆる住民が役割**を持ち、**支え合い**ながら、自分らしく**活躍**できる地域コミュニティを育成し、公的な福祉サービスと協働して助け合いながら暮らすことのできる社会

## 諸概念の整理



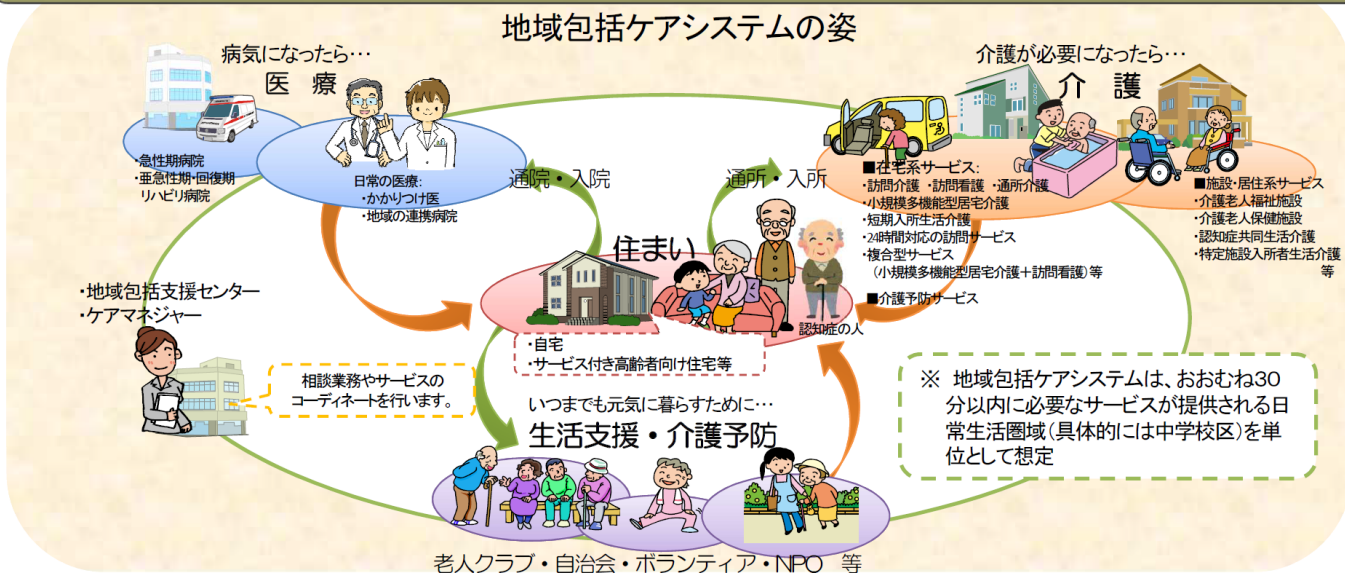
だれもが「得意」を活かして活躍できる地域を  
みんなでつくる  
⇒「すべての人」「地域」を  
対象とした取り組み  
(≡地域福祉)

(出典) 原田正樹(2021)「特集1 地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制の構築」  
『社協情報NORMA』No.346.

## 地域包括ケアシステム

- 団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、**住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を実現**していきます。
- 今後、認知症高齢者の増加が見込まれることから、認知症高齢者の地域での生活を支えるためにも、地域包括ケアシステムの構築が重要です。
- 人口が横ばいで75歳以上人口が急増する大都市部、75歳以上人口の増加は緩やかだが人口は減少する町村部等、**高齢化の進展状況には大きな地域差**が生じています。

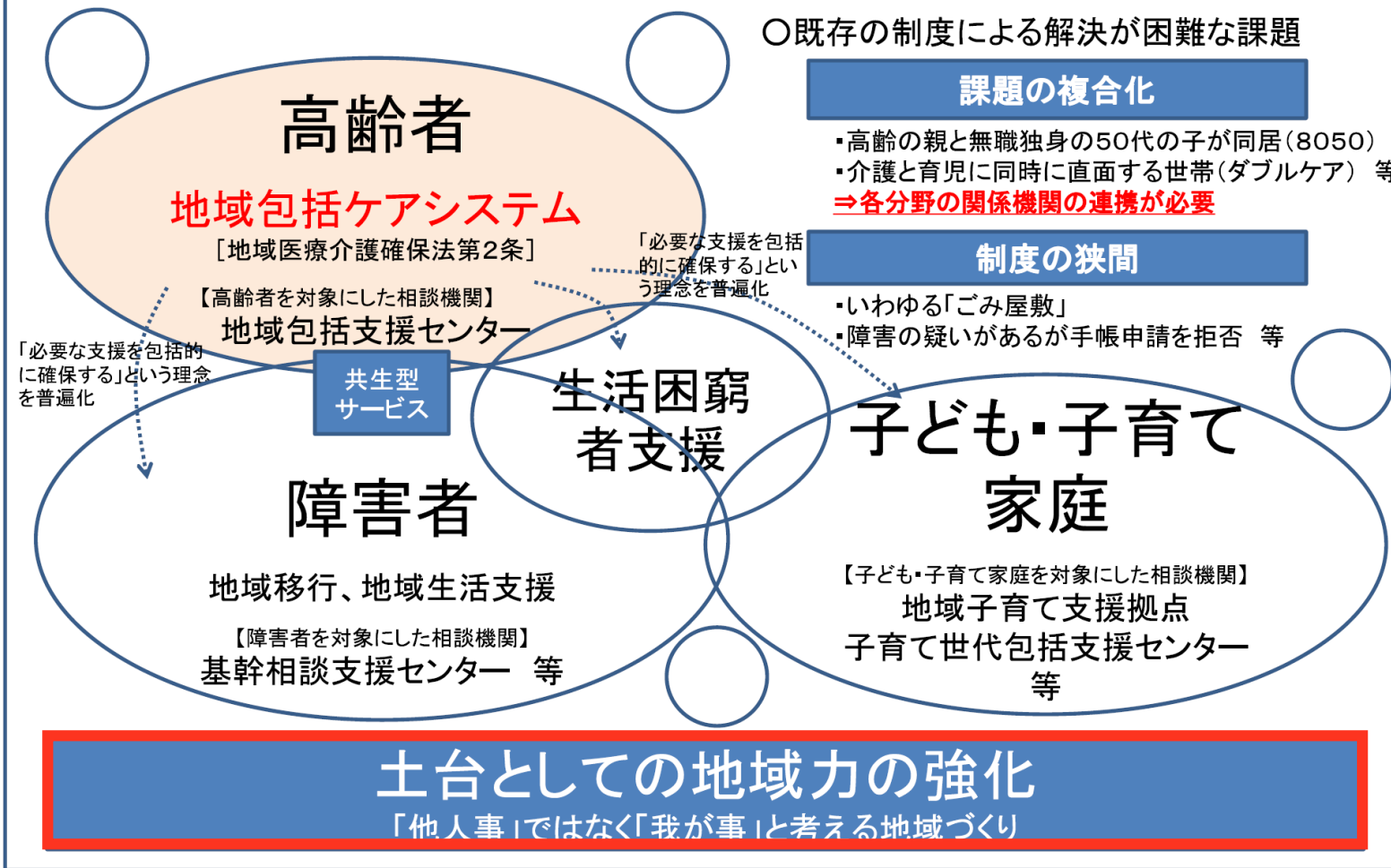
地域包括ケアシステムは、**保険者である市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていく**ことが必要です。



(出典) 厚生労働省ホームページ

地域における**制度的な取り組み**と**非制度的な取り組み**の有機的な連携

# 地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制



※厚生労働省ホームページ「地域共生社会」の実現に向けた改革の骨格(地域包括ケアシステムなどとの関係)

地域にあるさまざまな生きづらさを、

地域で暮らす、働く、活動する、

みんなの力で解消していこうとする取り組み

# 地域福祉はだれのもの？

## ■ 主役

地域住民、地域内のさまざまな主体

(住民自治組織、ボランティア組織、学校、企業、施設 など)

→それぞれが自分(たち)の「得意」を活かして生きづらさの解消に取り組む

## ■ サポーター

行政、社会福祉協議会、その他の専門職 など

## ■ パートナー

地域に関わるさまざまな主体(地域外の主体を含む)

# 地域福祉の具体的なステップ

- ① 地域の優先課題を**発見・共有**すること
  - ② 地域の**社会資源**を把握すること
  - ③ 課題の**具体的な解決方法**を考えること
  - ④ **多様な主体**と協働して課題解決に取り組むこと
  - ⑤ 活動に対する**振り返り**を行い、あらたな課題に取り組むこと
- ◎個々人が「**社会資源として活躍**すること」
- ◎たがいが知り合う「**対話と交流の居場所**」をつくる

まずは、  
「対話と交流の居場所づくり」  
から



# 「対話と交流の居場所」とは？

- すべての人にとっての「居場所」であること
- さまざまな人びとが時間・空間を共有し、たがいを知る場
- さまざまな人びとがつながる場
- ニーズ把握と専門職へのつながりの場
- 対話と交流を創発する場
- ◎ みんなが得意なことに取り組みめる場

## 〈対話と交流の居場所づくりの工夫〉

- 誰もが訪れたくなる場づくり
- ターゲットを絞ったイベント等の実施
- 多様な経歴、つながりをもつスタッフの確保

# インタビュー調査の結果

# インタビュー調査の方法と概要

- 地域、居場所に関する自由な語り
- インタビューの内容をICレコーダーに録音し、全文を文字起こししたうえで分析
- インタビュー協力団体および活動地域は以下のとおり

校区名	団体名(敬称略)
枚方第二	枚二みつば
香里	ほっとカフェ
明倫	チカラのみせ処 宮ノサポ
津田	ほっこりクラブ津田
川越	釈尊寺ふれあいの家、ふれあいのつどい処
菅原東	ぶらっとホーム
東香里	東香里元気づくり 地域づくりVタイム
西長尾	西長尾元気づくり 地域づくり

## 【活動内容】

- 3つの拠点を活用した居場所づくり
- 生きづらさを想像し、行動するための生活アンケート
- 社会福祉協議会、地域包括支援センター、行政との連携

## 【活動の特徴・工夫】

- ✓ 「楽しみ」をキーワードとする変化を恐れない事業展開
- ✓ 若年世代(働いている層)がのびのび活動できる地域

## 【活動内容】

- 飲みもの、食べものへのこだわり
- 参加者に喜びを提供するイベント(ミニネイルサロン)
- 「コロナ禍でもできること」に取り組む(キルトアート)

## 【活動の特徴・工夫】

- ✓ 「一本釣り」で担い手獲得(日常的な地域との関係構築)
- ✓ 大学生の継続的な関わりと交流の喜び

## 【活動内容】

- サポーターが活躍するカフェ、ちょいサポ、子ども食堂
- 商店街の強みを生かした就労支援
- 楽しみ×見守り＝ノルディック・ウォーキング
- 世代間交流×外出機会＝地域の写真展

## 【活動の特徴・工夫】

- ✓ 「商売人はものを売るだけでなく、地域とつながるもの」
- ✓ 地域に関わるすべての人の「満足度」を高める

## 【活動内容】

- 「健康維持」「地域の一体感」を目指した居場所づくり
- 「ほっこり新聞」で地域の社会資源をつなぐ
- 老人会、学校などとの戦略的な協働

## 【活動の特徴・工夫】

- ✓ 傾聴と情報発信に基づく地域づくり
- ✓ 対話を誘発する居場所づくり

## 【活動内容】

- 参加者もいきいき活躍できる居場所づくり
- 歴史探訪で男性の参加者を獲得
- 地域づくりへの想いが受け継がれる子ども食堂

## 【活動の特徴・工夫】

- ✓ 地域にある個性、得意を知り、居場所づくりに生かす
- ✓ 民生委員としての専門性と学校との協働



## 【活動内容】

- 地域の想いを実現したいいつでもだれでも気軽に集える場
- さまざまな世代が安心できる居場所をつくる(いきいきサロン、いきいき広場、子ども食堂)
- コミュニティJrの活躍

## 【活動の特徴・工夫】

- ✓ 「人」を中心とした地域づくり
- ✓ 他地域と連携しながら地域と向き合う

## 【活動内容】

- 男性も活躍できる居場所づくり
- 世代間交流事業:セタサロン、作品展、スポーツ祭
- 若年世代(働いている層)が地域と関わる機会

## 【活動の特徴・工夫】

- ✓ 地域福祉はすべての世代で作るもの
- ✓ 「自主性」と「協働」で取り組む地域づくり

## 【活動内容】

- 居場所で健康づくり(体操、ゴルフ、カーリンコン、散歩)
- アンケート調査で健康状態、想いを知る
- いきいきサロンと連携して「元気」をつくる

## 【活動の特徴・工夫】

- ✓ みんなが役割をもち、生きがいにつなげるような工夫
- ✓ 防災活動との連携で地域づくりを広く捉える

# 活動のようす①



# 活動のようす②



これからの居場所づくりに向けて

# 1) テーマを明確にする

- テーマ＝ミッション(使命)、ビジョン(目指すべき姿)
- 居場所づくりを通じてなにを達成したいか  
→自分たちの地域をどのようにしたい？  
(健康、一体感、世代間交流、つながり、など)
- テーマを地域全体で共有することのたいせつさ

## 2)こだわりをもつ

- こだわりは居場所の個性(コーヒー、作品、など)
- 運営者、参加者の活動に対するモチベーションを高める
- 参加者が居場所を楽しみ、自宅と地域とのつながりを感じるツールとしての「こだわり」



### 3) 垣根をこえる

- 運営者、参加者の垣根をこえる  
→ 地域共生社会の理念を意識する
- 「役割をもつ」「支え合う」「活躍する」が垣根をこえるためのキーワード
- 居場所づくり、地域づくりに「お客様」はいない
- 地域外の力が刺激、活力になることも

## 4)「得意」を把握する

- 役割を持ち、活躍することは「得意」を発揮すること
- 「得意」にもいろいろある
  - 趣味や特技、資格や仕事に関するスキルに加え、「聴き上手」「伝え上手」「まとめ上手」も「得意」
- 地域にあるさまざまな「得意」を把握することから
  - 心だんの会話や行動のなかに「得意」が隠れている？
  - 地域は人材の宝庫であると認識する

## 5) 選択肢を提示する

- よい居場所とは、自主的に訪れたいくなるような場
- 「訪れたい」は「適切な情報発信」から
- SNS、広報紙、回覧板、クチコミを効果的に
- 「みんなに選んでもらえる居場所」になることはたいせつだけれど、ほかの場所(集まり、グループ)を選ぶ判断を尊重する
- 地域にあるさまざまな選択肢を適切に提示する

## 6) 地域内外につながりをつくる

- 居場所づくり、地域づくりはみんなで取り組むもの
- 地域内外の主体との「協働」について考えてみる
  - 「協働」とは、共有された目標の達成に向けて、対等な立場で、適切な役割分担のもとで取り組むこと
  - できることをできる範囲で
- 「必要性に基づく協働」と「戦略的な協働」

# 7)子どもをたいせつにする

- 「子ども」「世代間交流」は地域づくりのキーワード
- 子どもは「守るべき存在」「次代を担う育てるべき存在」
- たくさんの「顔見知りの関係」を地域につくる
- 子どものための取り組みには親も参加する…？

## 8) 真剣に楽しく取り組む

- 参加者が楽しむためには、運営者も楽しむ
- 真剣に楽しく、満足度を高める

運営に関わる人びとの「満足度」→居場所の持続可能性

→参加者の安心感と認知度向上→参加者の居心地のよさ

→参加者の「満足度」

- 他地域の実践事例を知ることが、自分たちの地域の  
実践について考えるたいせつな機会
- タテの関係ではなく、ヨコの関係を
- ほどよい距離感で頼ったり頼られたり
- 「ICT」「若者」「屋外」についても考えてみる
- 「居場所」はきっかけの場所
- 「知った者の責任」を果たすために

- インタビュー調査にご協力いただいた、  
枚二みつば、ほっとカフェ、チカラのみせ処宮ノサポ、  
ほっこりクラブ津田、釈尊寺ふれあいの家／ふれあいの  
つどい処、ぶらっとホーム、東香里元気づくり地域づくり  
Vタイム、西長尾元気づくり地域づくり のみなさま
- 調査にかかる手続き全般においてご協力いただいた、  
枚方市健康福祉部健康寿命推進室 のみなさま

大変お世話になり、ありがとうございました。



ご清聴ありがとうございました

**SETSUDAI** 